

DPRI Award 設立の趣旨および

第 8 回 DPRI Award 受賞者決定の経緯

研究教育担当副所長 松島 信一

防災研究所は、国内外で発生する自然災害を研究対象とすることから、国際交流協定の締結、国際共同研究、海外災害調査や留学生・海外共同研究者の受け入れなどの国際的な活動にも積極的に取り組んで参りました。平成 22 年度に認定され開始した共同利用・共同研究拠点は令和 4 年度から 3 期目に入りました。また、防災研究所が事務局を務める世界防災研究所連合（GADRI）は今年度、第 6 回世界防災研究所サミットを開催いたします。このように防災研究所は頻発する国内外での自然災害に備えるための国際防災研究拠点として、その地位を確立するために、様々な新しい取り組みを推進しています。

これらの一環として平成 23 年 3 月に「京都大学防災研究所国際表彰規程」が制定され、DPRI Award が設立されました。その表彰の要件は

- 1) 防災研において、客員教員や共同研究者などとして滞在し、セミナーや共同研究などを実施し、防災研の研究教育に成果を上げた方
- 2) 防災研が主催する研究集会等において、基調講演、招待講演等を務め、又は企画運営に携わり、防災研の活動に貢献した方
- 3) 防災研が実施する国際共同研究及び現地調査等において貢献した方となっております。

平成 25 年度には第 1 回の防災研究所国際表彰 DPRI Award をカリフォルニア工科大学名誉教授の金森博雄博士に授与いたしました。また、平成 26 年度には第 2 回 DPRI Award をメキシコ自治大学教授のフランシスコ・サンチェズセスマ博士に、平成 27 年度には第 3 回 DPRI Award をウォータールー大学教授のキース・ハイペル博士に、平成 28 年度の第 4 回 DPRI Award では、ローザ

ンヌ大学教授のミシェル・ジャボイエドフ博士と国際応用システム分析研究所のリスク・レジリエンスプログラムに授与いたしました。平成 30 年度の第 5 回 DPRI Award ではネバダ大学リノ校教授のジョン・グレッグ・アンダーソン博士に「研究教育業績賞」を、令和元年の第 6 回 DPRI Award では、ノーサンブリア大学教授のアンドリュー・コリンズ博士に「研究教育貢献賞」を授与しました。令和 2 年度には、第 7 回 DPRI Award を台湾国立防災救助技術センター（NCDR : National Science and Technology Center for Disaster Reduction）の元センター長である陳亮全（チェン・リアン チュン Liang-Chun CHEN）博士に「研究協力貢献賞」を授与しました。

今回、令和 3 年度の国際表彰について、令和 4 年 2 月に防災研究所の矢守教授から推薦があり、表彰選考委員会で慎重に審議しました。その結果、コロラド大学ボルダー校・行動科学研究所・自然災害センター（Natural Hazards Center, Institute of Behavioral Science, University of Colorado, Boulder）の Researcher in Residence であり、令和 4 年度に防災研に共同研究者として長期滞在されている、James D. Goltz（ジェームズ・デニス・ゴルツ）博士に対し、第 8 回の防災研究所国際表彰 DPRI Award の「研究教育貢献賞」の受賞者として所長に推薦することを決定いたしました。その後、所長の承認を受け、これを教授会に諮り承認されました。

ゴルツ博士は 1970 年に米国オハイオ州立大学（Ohio State University）社会学部を卒業後、米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校（University of California Los Angeles）社会学専攻の修士課程を 1978 年に修了されました。また、2006 年には米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校社会学専攻より Ph.D の学位を取得されました。

ゴルツ博士は、災害社会学、地震学に関するアウトリーチ研究、災害リスクマネジメントを専門とされ、1983 年以降、California Office of Emergency Services の Earthquake Program の Research and Evaluation Program Manager、EQE International Inc. の Senior Policy Analyst、California Institute of Technology（カリフォルニア工科大学）における Office of Earthquake Programs の Manager と Consultant to the Governor's Office of Emergency Services、California Office of Emergency Services における Earthquake and Tsunami Program Specialist と Earthquake, Tsunami and

Volcanic Hazards Program の Branch Chief、カリフォルニア工科大学の Visiting Associate in Mechanical and Civil Engineering、日本学術振興会の リサーチフェローを歴任され、現在はコロラド大学ボルダー校・行動科学研究所・自然災害センターの Researcher in Residence として研究を進められています。この間、防災研究所には3度に亘り長期滞在をされ、2022年度には日本学術振興会外国人招聘研究者として防災研究所に4回目の長期滞在をされています。

ゴルツ博士は、2011年に米国カリフォルニアにおける津波ハザードに対する軽減策・普及啓発・非常時対策への強力なリーダーシップが評価され、“Inspirational Leadership in Tsunami Hazard Mitigation, Public Awareness, and Emergency Preparedness for the State of California”との理由で2011 WSSPC (Western States Seismic Policy Council) Leadership Award を受賞されました。

防災研究所との関係は、ゴルツ博士が2015年10月に最初の防災研究所・招へい研究員（客員教授）として1年間に及ぶ長期滞在をされたことから始まりました。2017年11月からは2回目の招へい研究員（客員教授）として11ヶ月間滞在されました。その後、2019年4月から8ヶ月間は日本学術振興会外国人招聘研究者として防災研究所に滞在して、「地震動に対する人間行動と社会的反応に関する国際比較研究」に関する共同研究を実施されました。さらに、2022年4月から2023年2月までの予定で再度日本学術振興会外国人招聘研究者として防災研究所に滞在中で、「南海トラフ地震の臨時情報に対する地方自治体の対応計画に関する研究」に関する共同研究を実施されています。

ゴルツ博士は、現在を含めた4度の長期滞在の間に、米国 USGS（アメリカ地質調査所）が進めてきた「DYFI (Did You Feel It?) プロジェクト」に関する研究、コロナ禍や気候変動を「Slow-onset Disaster」（始点や終点を特定しにくい災害）のマネジメントの問題として考察した研究、「南海トラフ地震に関する臨時情報」についての研究など、多くの国際共同研究を実施されてきています。いずれの共同研究においても、長年に亘る実務者および災害社会学の研究者としての経験から幅広い知見を提供されて来られました。また、米国における地震学や災害社会学の研究成果の紹介などを通じ、共同研究に国際性と文化比較の観点を加えるなど、多くの貢献をされています。さらに、共同研究より防災研究所メンバとともに共著論文を複数発表するとともに、共同研究等を通して多く

の若手研究者や大学院生の指導に携わり、国際性を身につけた学生、スタッフが数十人にのぼるなど、研究面だけではなく教育面でも大いなる貢献をされています。

これらのゴルツ博士との継続的な共同研究の実績は、防災研究所の国際的な学際研究、異分野融合研究を牽引し、国際プレゼンスの向上に大いに貢献してきました。ゴルツ博士には、これまでのご貢献に深く感謝するとともに、今後も受賞者に授与される終身称号の DPRI Fellow として、防災研究所の研究・教育に大所高所からご指導・ご助言いただければ大変ありがたく存じます。